



監督：若松節朗
 脚本：西岡琢也
 原作：山崎豊子『沈まぬ太陽』（新潮文庫刊）
 出演：渡辺謙 / 松雪泰子 / 三浦友和
 / 鈴木京香 / 石坂浩二 / 神山繁 / 柴俊夫 / 西村雅彦 / 香川照之 / 風間トオル / 加藤剛 / 小林稔侍 / 品川徹 / 宇津井健 / 木村多江 / 清水美沙 / 鶴田真由 / 草笛光子 / 柏原崇 / 戸田恵梨香

👁️👁️ みどころ

複雑化し、人間関係が希薄になった現代社会では「ちゃんと伝える」ことは難しい。『愛のむきだし』（08年）に続いて園子温監督が放ったそんな問題提起は、親と子、男と女の間で「ちゃんと伝える」ことの大切さを見直すもの。そのきっかけが、父親に続いて息子もガン告知というのは少し悲しすぎるが、そこは脚本の妙でしっかりと。次々と新鮮な問題提起を続ける園子温監督に拍手！

1962年の風景は？あんな労使対決の姿が

本作の主演は渡辺謙演ずる国民航空の社員恩地元。映画冒頭、恩地の1962年当時の労働組合委員長としての活躍ぶり、その十数年後創立35周年を迎えた国民航空の記念パーティーの姿、そして 某年8月に御巣鷹山で起きた国民航空ジャンボ機墜落事故という3つの姿が平行して描かれる。

1967年大学に入り学生運動にのめり込んだ私は、1960年代の大学や労働組合での団交の様子をよく知っている。恩地は副委員長の行天四郎（三浦友和）書記長の八木和夫（香川照之）を従えて、年末手当の支給をめぐる社長の桧山衛（神山繁）労務担当役員の本堂信介（柴俊夫）堂本の右腕の八馬忠次（西村雅彦）らと団交で対決中。「交渉決裂！」となる中、恩地は「スト決行！」を宣言するが、民間企業とはいいながら政府が出資し日本国を代表する大会社国民航空でホントにストライキなんかできるの？もしそれをやれば総理大臣が乗る飛行機が飛べなくなるから、どえらいことに。現実主義者（？）の行天はストはあくまで駆け引きの材料と考えていたが、原理主義者（？）の恩地は本気でそれをやるつもりらしい。そんな路線の対立が表面化する前に会社側が全面的に折れてき

たから、八木をはじめ組合員は「恩地！恩地！」の大合唱となったが、そこで面白くないのが行天。2人の運命的な対立の原点はここに。

十数年後の風景は？ 国民航空はいかなる改革を？

それから十数年後。今や行天は国民航空の常務取締役として大車輪の活躍中。また運輸官僚からの天下り社長ではなく、社内生え抜き初の社長となった堂本は今国民航空の創立35周年記念パーティーで挨拶中。恩地をパキスタンのカラチに追いやり、階級闘争路線に立つ労働組合を非主流派に追いやった堂本、八馬、行天ラインが今やトップを握っていたが、そんな中起きたのが520名が死亡した国民航空機墜落事故。この事故は天災？それとも人災？これは、派閥闘争にうつつを抜かし、安全体制の確立をおろそかにしてきた国民航空の悪しき体質の問題では？事故調査委員会による原因究明が進むにつれて、次第にその実態と驚くべき国民航空の企業体質が明らか。

さあ創立35周年という記念すべき年にジャンボ機墜落による520名死亡という大惨事を起こした国民航空は、いかなる改革を？また、その中でうごめく政・官・財をめぐる人間ドラマとは？

旺盛な執筆意欲にビックリ

私にとっての作家山崎豊子氏のベスト3は『白い巨塔』『華麗なる一族』『不毛地帯』だが、当然それは年代によって違うはず。私の大好きな作家司馬遼太郎が1996年に72歳で亡くなったのは非常に残念だが、今回プレスシートを読んで驚いたのは、山崎豊子は1923年生まれ、司馬遼太郎とはほぼ同じ、1924年生まれだということ。そして『沈まぬ太陽』は1995年に刊行した作品だから、何と彼女が71歳の時に完成させた作品ということになる。そのタイトルは知っていたが、それがこんな骨太の社会派ドラマだったことをはじめて知るとともに、それを映画で観ることができて大感激。

そんな山崎豊子は2009年5月には10年ぶりの新作となる『運命の人』を刊行し、大きな注目を集めているというから恐れ入る。もし司馬遼太郎があと10年、15年生きていたら？それと対比して、「後期高齢者」の仲間入りした山崎豊子の旺盛な執筆意欲にビックリ。

今は死語？ 昭和の企業戦士の生きざまは？

1949年生まれの私は団塊世代の代表だが、企業戦士という言葉は団塊世代より少し前、つまり恩地や行天たちが国民航空の労働組合でひと暴れしていたときに使われたもの？本作後半には内閣総理大臣利根川泰司（加藤剛）の「参謀」として龍崎一清（品川徹）が登場するが、これは明らかに『不毛地帯』の主人公壺岐正のモデルとされた瀬島龍三をイメージしたもの。彼は元関東軍参謀だが、終戦後シベリアに抑留され、帰国後商社に入って辣腕をふるった人物。そんな瀬島龍三をモデルとした龍崎は、利根川総理の参謀として関西紡績会長の国見正之（石坂浩二）に「三顧の礼」を尽くして、国民航空の会長就任

のために尽力するから、その姿に注目。

「不毛地帯」で描かれた企業戦争は、まさに企業戦士たちの生死をかけた戦い。今でこそパキスタンのカラチやイランのテヘラン、そしてケニアのナイロビという地名は日本でも知られているが、1960年代にそんな所へ赴任を命じられるのはまさに鳥流し。しかし、松山衛との間で「2年間だけの辛抱だ」「他の組合員には一切の不利益処分はない」と約束を交わしてパキスタンのカラチへ旅立った企業戦士の恩地はそれをじっと我慢したからえらい。かたや行天が早々と組合活動をやめて出世主義に舵を切り替え、組合分断工作を強めていく中、恩地はもちろん書記長の八木たち組合員にはさらに苛酷な運命が。さあ、そこでどう動く？昭和の企業戦士たち！

恩地のような遺族係は例外中の例外？

去る9月28日、JR西日本福知山線脱線事故の調査情報漏洩問題で、前原誠司新国土交通大臣がJR西日本の社長らと呼び、鉄道事業法にもとづき事実関係の調査や再発防止策の提示を求める命令書を手渡し、「被害者や国民に対する背信行為。言語道断で重く受け止めてほしい」と徹底調査を求めたが、これはきわめて異例。JR西日本出身者による報告書案を国交省航空・鉄道事故調査委員会（現・運輸安全委員会）の委員から入手し有利な内容に書き換えるように働きかけたというひどい癒着ぶりをみると、本作にみる遺族係恩地の誠実さが鮮明に浮かびあがってくる。

行天常務を従えて堂本社長が一軒ごとに遺族宅の甲間に訪れたのは、今さらとはいえ企業の誠実さをアピールするものとして評価すべき。ところが、今お線香をあげている被害者の名前も認識していないことが明らかになったのでは、かえって逆効果。怒り狂った遺族が、堂本らを追い返したのは当然だ。はるか昔、1957年から『スーパージヤイアンツ』で勇姿を見せた宇津井健が、本作では自分が飛行機チケットを送ったばかりに、帰省する一人息子夫婦とその孫を失った遺族阪口清一郎役を存在感豊かに演じている。また、東京出張だった夫を失い、アルコール中毒症になってしまった妻の鈴木夏子（木村多江）ひとり旅をさせるべく搭乗させたために、9歳の息子を失った小山田修子（清水美沙）遺体安置所となった市民体育館の中で原形をとどめない無惨な遺体の中から夫の遺体を捜し出そうと血眼になる妻布施晴美（鶴田真由）などの遺族の悲しみが浮かびあがってくる。

もちろん、遺族係の恩地がその悲しみを和らげたり救うことはできないが、せめて恩地のように誠実に対応してくれれば遺族としても納得できるというものだ。人間のやることだから結果的に列車事故も航空機事故も不可避かもしれないが、そこで求められるのは堂本社長のようなその場しのぎのつくろいではなく、恩地のような真の人間性。しかし、恩地のような遺族係はきつと例外中の例外？

松雪泰子の立場には痛々しさが

ジャンボ機墜落事故を起こした国民航空の再建問題は、基本的に国民航空内の権力闘争を含む政と官を巻き込んだ男のドラマだが、そこに一人だけ登場する女性が、本来あの1

23便にスチュワーデスとして乗り込むはずだった松雪泰子演ずる三井美樹。三井は1962年当時の労使団交当時から恩地と行天を見守っていたから、それから十数年経った今は何歳？そして今、彼女は国民航空内のどんな部署で、どんな仕事を？

私の友人の女性では、小学校時代の同級生と大学時代の同級生の2人が日本航空に就職したが、1971年当時日本航空へ就職するのはエリート中のエリートだった。そんな彼女たちのその後の立場を考えると、1962年当時労働組合の委員長や副委員長と親しくしていた三井が、十数年後行天の愛人兼スパイとして生きていたのも納得できないわけではない。しかし、『フラガール』（06年）でのキラリと光った女性像がイメージとして残っているためか、私には松雪泰子のこんな立場には痛々しさが？

何ともタイムリー その1 国民航空の再建策は？

途中休憩（インターミッション）10分まで用意した、3時間22分の大作の公開は2009年10月24日だが、これが実にタイムリー。多額の赤字を抱えて破綻寸前にある日本航空の再建策が世間の注目を集めている昨今、本作に描かれる 国民航空内の権力争いと分裂した労働組合の縄張り争い、 国民航空役員と癒着した運輸官僚たちの国益、省益を無視した私欲の追求、 運輸大臣道塚一郎（小野武彦）をはじめとする政治家たちの運輸利権をめぐる見苦しい姿は実にわかりやすい。まさか、日本航空をめくってもこんな不透明で黒い癒着構造が？

後半からラストにかけて少しずつ暴かれていく為替差損による裏金作りのシステムや、日航商事の会長八馬忠次によるホテル買収を軸とした裏金作りの理解は難しいが、真の改革を進めるためにはこのようなウミを出し切ることが大切。自民党政権下で隠されていたたくさんのウミは民主党政権下で少しずつ暴かれていくだろうが、国民航空のウミと同じように存在しているであろう日本航空内のウミはどのように暴かれていくのだろうか？1960年代～80年代に起きた国民航空の問題点は、きっと現在起きている日本航空の問題と共通点があるのでは？そんなタイムリーな視点から、是非本作を！

何ともタイムリー その2 会長人事は？

民主党の新政権下、何とも危なっかしい動きをしているのが亀井静香金融担当大臣によるモラトリアム構想だが、もう1つの大問題は郵政担当大臣も兼ねる亀井静香大臣による日本郵政の西川善文社長の「首切り」問題。かんぼの宿をめぐる鳩山邦夫前総務大臣のパフォーマンスは大きな注目を集めたが、かんぼの宿売却問題と小泉元総理が「三顧の礼」を尽くして迎えた西川善文社長の解任問題とは全く別。郵政民営化見直しをマニフェストとして掲げた民主党も西川善文社長解任の意向だが、私はそれは大間違いだと思っている。

それはともかく、某年8月のジャンボ機墜落事故の後、国民航空の再建はどうなるの？一体誰がこの巨大企業改革のリーダーシップをとるの？それは郵政民営化法案がやっと国会を通った後の日本郵政トップの選任と同じような大問題だから、時の総理大臣が頭を悩ませたのは当然。それに対して国民航空役員や運輸官僚そしてそれと癒着した道塚運輸大臣以下の運輸族が事なかれ主義で押し通そうとしたのはある意味当然だが、そこで利根川

総理が白羽の矢を立てたのが関西紡績の国見会長。本作にみる総理大臣の命を受けた参謀龍崎による国見の一本釣り劇は興味深いから、是非それに注目。会長室の設置、元労働組合委員長であった恩地の会長室部長への抜擢など矢継ぎ早の改革はいかに民間出身の国見らしいが、西川善文社長ですら政局の嵐の中で命運尽きようとしている今、改革派国見会長の命運は？

行天にはどんな結末が？

国民航空のお家芸(?)は、多額の政府出資を受けた日本屈指の大企業である親方日の丸体質が多分に残る日本航空のそれと同じく、派閥対立と労働組合間の抗争？そう思っていると、映画終盤に至って俄然明らかになるのが、為替差損を活用した大規模な裏金作りという恐るべき実態。西松献金問題では民主党幹事長に就任した小沢一郎の秘書大久保隆規被告の公判がいよいよ始まる上、鳩山由紀夫総理大臣の故人献金問題についても検察庁の捜査が始まった。政治とカネをめぐる問題は政治改革の一大テーマだが、さてその進展は？

他方、政官財の鉄のトライアングルには財から政官へのカネの提供が不可欠だが、その必要資金は一体どこから捻出するの？そこでいろいろ工夫されるのが裏金作りのテクニクだが、半官半民の、国家を代表する巨大企業国民航空の中でホントに裏金作りが？そんな汚れ役をきっちりと果たす人物が重宝されるのは当然だが、そんな生き方にどっぴりと浸かってしまった昭和の企業戦士の運命は？

今や国民航空の常務として実質的にその屋台骨を支えている行天と、今やそのコマとしてのみの役割しか存在しなくなった元労働組合書記長八木が迎える運命とは？

10年ぶりにみる「沈まぬ太陽」は？

サラリーマンには転職がつきものだが、恩地には懲罰人事と言わざるをえないパキスタンのカラチ行き、2年と限定されていた約束の一方的反故による、イランのテヘラン、ケニアのナイロビ勤務など、企業戦士恩地には苛酷な試練が続いた。それでも彼が会社を辞めなかったのはなぜ？それも本作の大きなテーマだ。

本人はそれでもいいかもしれないが、日本人の友達もおらず学校にもロクロク行けない環境下でパキスタンで生活する恩地の子供たちはたまったものではない。恩地家の長男克己(柏原崇)と長女純子(戸田恵梨香)が、子供時代にさまざまな問題を抱えながらもグレもせず、今は一人前の大人に成長したのは、ひとえに妻りつ子(鈴木京香)が献身的に夫を支え家族を守ってきたため。ところが、国見会長の下でやっと国民航空改革のために実力を発揮し始めた恩地も、国見会長が解任されることになると運命共同体？それはサラリーマンとしてやむをえない変化だが、まさかここで更に行天常務からケニアのナイロビ行きを命じられるとは。

ここまで不当な人事配置命令を受ければ、裁判闘争に踏み切っても勝てるはずと私は確信しているが、さてそんな命令を受けた恩地の対応は？これが3時間22分という大作の最後のみせどころだ。一人息子とその家族を失った阪口は「補償問題は無用」と恩地に告

げて今は一入お遍路の旅に出ているが、再度単身赴任でナイロビに赴いた恩地が阪口にあてて書いた手紙とは？そこに、あの高度経済成長時代に企業戦士として生き、天国と地獄を体験してきた恩地の人間としての成長の姿が見えるはずだ。太陽は、東から出て西に沈むもの。そう教わってきた私たちには「沈まぬ太陽」とは何とも不思議なタイトルだが、山崎豊子は本作になぜそんなタイトルを？そんなことを考えながら、久しぶりの邦画の骨太大作をじっくり鑑賞したい。

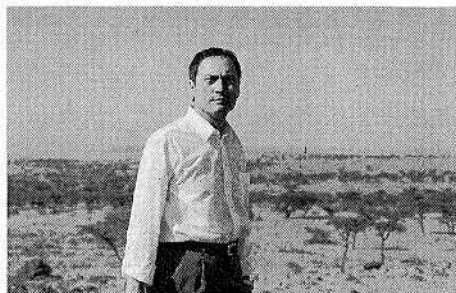
2009(平成21)年10月5日記

101



「沈まぬ太陽」

(24日からTOHOシネマズ梅田ほかで公開)



©2009「沈まぬ太陽」製作委員会

昭和の企業戦士の生きざまは？

私にとって山崎豊子のベストは『白い巨塔』『華麗なる一族』『不毛地帯』。じき司馬遼太郎と同世代の彼女が昭和の企業戦士の生きざまを描いた力作が、日本航空再建問題と日本郵政トップ人事に揺れる今、鮮烈な問題提起を、民主党政権下で労組出身の官房長官誕生をみると、自民党主導と政官財の鉄のトライアングルによる昭和の高

度経済成長時代とは隔世の感が。

1962年、国出資の巨大企業国民航空で「スト実行！」を叫んだ労組委員長恩地(渡辺謙)に

とオーバードラップ？ 邦画の規格サイズを大きく越えた壮大なドラマはタイムリーな論点提示と見どころ満載だ。

は、闘争勝利の見返りにパキスタン・カラチ支店行きという懲罰人事が。他方、いち早く転向した副委員長行天(三浦友和)は10年後の今、常務として大活躍中。

過酷だが、ジャンボ機墜落事故は親方日の丸体質だった国航の安全管理責任を白日の下に。遺族係として誠実に向き合う恩地と対照的に、死者の名前も知らないまま形式的弔問に回る社長の感覚は異常そのもの。派閥抗争と不毛な組合間対立を続け、裏金作りには熱心だが、事故処理対策と再発防止にはお茶を濁す企業

とオーバードラップ？ 邦画の規格サイズを大きく越えた壮大なドラマはタイムリーな論点提示と見どころ満載だ。

として大活躍中。

後半で存在感を示すのが総理要請で国航会長に就任した国見(石坂浩二)。「亡くなった方たちのために」と志高く恩地を登用し改革手腕を発揮する国見だが、政権内抗争の暗闘の中で理不尽に退任を迫られる姿は、

あと驚く結果を迎える行天同様にも、恩地にも再びケニア・ナイロビ支店行きという更なる報復人事が。しかして、人間として大きく成長した恩地がそこで見る「沈まぬ太陽」とは？

企業戦士の出世競争は

ロクナリストら案もないまま公的資金注入に甘えようとする日航再建策や、福知山線脱線事故調査情報漏洩問題で、国交相から改善命令を受けたJR四日本と同じ？

後半で存在感を示すのが総理要請で国航会長に就任した国見(石坂浩二)。「亡くなった方たちのために」と志高く恩地を登用し改革手腕を発揮する国見だが、政権内抗争の暗闘の中で理不尽に退任を迫られる姿は、

企業戦士の出世競争は

ロクナリストら案もないまま公的資金注入に甘えようとする日航再建策や、福知山線脱線事故調査情報漏洩問題で、国交相から改善命令を受けたJR四日本と同じ？

後半で存在感を示すのが総理要請で国航会長に就任した国見(石坂浩二)。「亡くなった方たちのために」と志高く恩地を登用し改革手腕を発揮する国見だが、政権内抗争の暗闘の中で理不尽に退任を迫られる姿は、

あと驚く結果を迎える行天同様にも、恩地にも再びケニア・ナイロビ支店行きという更なる報復人事が。しかして、人間として大きく成長した恩地がそこで見る「沈まぬ太陽」とは？

大阪日日新聞 2009(平成21)年10月17日